2025 年 3 月 6 日

【SUPER FORMULA(全日本スーパーフォーミュラ選手権) 第 1 戦・第 2 戦 /鈴鹿サーキット】
大会直前情報

# SUPER FORMULA に、サステナブルなタイヤの新仕様を供給

横浜ゴム株式会社は、スーパーフォーミュラを統括する株式会社日本レースプロモーション(JRP)が進めるプロジェクト「SUPER FORMULA NEXT50(ゴー)」に賛同し 2023 年よりサステナブルなレーシングタイヤを供給してきましたが、2025 年からは高いパフォーマンスを同等以上に発揮し、再生可能原料・リサイクル原料（以下、再生可能・リサイクル原料）比率を約 46%※ 1 に高めた ADVAN レーシングタイヤを全チームに供給します。

横浜ゴムがスーパーフォーミュラに供給しているタイヤは、従来の「枯渇性資源」と言われる原油や地下資源を原料とした合成ゴムやオイル、樹脂、シリカといった原材料の一部を置き換え、「再生可能原料」と言われる天然ゴムやバイオマスオイル、天然由来の樹脂、もみ殻シリカを使用しています。また、「リサイクル原料」と言われる鉄くずから回収した再生ワイヤーや、廃タイヤを粉砕し再生した再生ゴムなども使用しています。
2023・24 年は再生可能・リサイクル原料比率が約 33%の仕様を継続供給しており、その間も当初目標に掲げた「再生可能・リサイクル原料比率 35%」を目指し、開発テストを続けてきました。
2024 年 9 月には、再生可能・リサイクル原料比率約 60%の高比率なプロトタイプタイヤをデモ走行に供給するなど、さまざまな試みを経て研究・開発を進めてきました。そして本大会から再生可能・リサイクル原料比率約 46%という仕様をシーズンを通して供給します。このタイヤはより高いパフォーマンスを発揮することを目指して開発され、特にウエット用タイヤではウォームアップ性能やグリップ性能を高めています。
※ 1 ：ドライ・ウエット用タイヤの平均値

JRP の進める「カーボンニュートラルテスト」は、2023 年に年間 2 回、2024 年には 3 回行われました。評価ドライバーは、今シーズンはレギュラードライバーとしてスーパーフォーミュラへのデビューが決まっている高星明誠選手と、今シーズンよりチーム監督として采配を振るう塚越広大監督が務め、様々なスペックのタイヤを履き比べ、細かく評価してもらいました。

■高星明誠選手
「この 2 年、スーパーフォーミュラで、年間を通して様々な季節、サーキットの中でも使用できるサステナブルなタイヤを開発するという仕事に携わることができました。最初に再生可能・リサイクル原料比率が 33%と聞いた時には、結構多いなと感じましたが、今シーズン供給するのはそれをさらに上回る 46%です。横浜ゴムさんが求めていること、JRP の皆さんが求めていることなど、様々な思いが合わさったタイヤが出来上がったと思います。実際にレースで走ってみてドライバーたちにどう評価されるのか、これまで開発に携わってきたドライバーとしては気になるところです」

■塚越広大監督
「スーパーフォーミュラは、タイヤはワンメイクのカテゴリーなので、タイヤ本来の性能はもちろんですが、安定して同じものを供給できるかという点が非常に大事です。その点でもこれまでもかなり品質の高いものが供給されていると思います。今回の仕様も JRP と横浜ゴムさんが目指すレースの形を作り上げるために必要な要素はしっかりとクリアしているタイヤができたと思っています。僕自身、これまでレーシング

ドライバーを続けてきた中で、自分が長年培ってきた経験や技術が社会貢献につながる機会ができたことはとてもうれしく思っています。今シーズンのタイヤが、レースを盛り上げてくれることはもちろんですが、この技術が巡り巡って市販タイヤに何か新しい技術をもたらしたり、未来を変えるきっかけになってくれたらうれしいです。」

モータースポーツは「走る実験室」と良く例えられますが、ハイパフォーマンスのタイヤ開発のためだけでなく、未来に向けた新しいタイヤ開発のためのどちらの意味もあると思っています。
今シーズンは、この週末に開催される開幕戦から 11 月の最終戦まですべての大会で、再生可能・リサイクル原料を活用したレーシングタイヤを供給します。今後も、トップカテゴリーに必要な走行性能と、安全にかかわる性能を検証しながら、さらに未来に向けてサステナブルなタイヤを開発していく挑戦を続けていきます。

ドライ用の「ADVAN」レーシングタイヤ

ウェット用の「ADVAN」レーシングタイヤ
※ウェット用タイヤはドライ用と識別しやすくするため、OUT 側に白ステッカー、 オンボードカメラから視認できるよう IN 側に緑ステッカーを使用しています。